

福 祉

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 福祉科における個別最適な学び、協働的な学び

これからの学校には、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の担い手を育てることが求められる。

福祉科においては、福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにすること、福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養うこと、職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して、自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことが求められている。これらを実現するためには、授業では、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる学習活動を展開することが極めて重要となる。

なお、障がいのある生徒などへの指導上の配慮として、個別の状況に応じて、こまめに努力を認める声かけをするなどして、学習の見通しをもてるようにするため、前もって実験・実習の手順や方法を視覚的に明示するなどの配慮を行うことが大切である。

(2) 福祉科における共通性の確保を目指した学び

福祉科においては、生活に関する事象を当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けるといふ福祉の見方・考え方を働かせ、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する必要がある。そのためには、仮説を立てて調査・研究・実習などを行い、その学習活動を通して生徒が自己の学びや変容を自覚し、キャリア形成を見据えて学ぶ意欲を高めることが大切である。また、福祉関係者や当事者などとの対話、生徒同士の討論といった自らの考えを広げ深める機会や、事例など科学的な根拠に基づいて福祉の課題に取り組む学習活動を設けることも大切である。

(3) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための学習評価

個別最適な学びや協働的な学びの充実を図る上では、粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を粘り強く調整しようとする側面の2つの側面を評価する「主体的に学習に取り組む態度」の評価は特に重視する必要がある。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の例として、「振り返りシート」の活用がある。小単元ごとに学習活動の成果や自身の行動について記入させ、「自己評価」を行うことで自らの学習状況を把握させたり、記述内容から自己調整を図っている部分を読み取り評価することが考えられる。また、ペアワークやグループワークでは、仲間の意見を聴くことで新たな価値観に気付いたり、分かりやすい発表に向けて意見をまとめたりする活動に粘り強く取り組んでいるかを見取ることが大切である。

2 指導と評価の計画例

(1) 介護福祉基礎（2単位）の計画例

ア 単元〈介護を必要とする人の理解と介護〉の目標

- ① 介護を必要とする人の生活状況を個別性や生活の多様性、社会との関わり、介護福祉サービスなどについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ② 介護を必要とする人の状況や介護福祉サービスについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。
- ③ 介護を必要とする人の生活状況や介護福祉サービスについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護を必要とする人の生活状況を個別性や生活の多様性、社会との関わり、介護福祉サービスなどについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	介護を必要とする人の状況や介護福祉サービスについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	介護を必要とする人の生活状況や介護福祉サービスについて自ら学び、主体的かつ協働的に <u>取り組もうとしている。</u>

単元の評価規準は、単元の目標の語尾を変換して作成する。

ウ 単元の指導と評価の計画（20時間）

時間	ねらい及び学習活動	知	思	態
1～6 介護を必要とする人と生活環境	ねらい：生活環境を整えることで安全かつ自立につながることを理解するとともに、生活習慣や生活歴、価値観、家庭や地域との関係などについても関連付けて学ぶ。 学習活動：教科書や他の福祉科目の学習内容を基に理解した内容をレポートにする。また、福祉施設等の職員にインタビューを行うなどして介護を必要とする人の生活環境についてまとめた内容を発表する。	○		○
		レポートの記述は、一定量の文字を書くことが困難な生徒には、手書きではなくICT端末を使用する方法を推奨する。		
		インタビューは、施設訪問のみならずオンラインで実施することも可能とする。		
7～12 高齢者の生活と介護	ねらい：加齢により生じる生活上の課題や生活を支える基盤について、健康・生活のリズムと変化、人間関係の役割の変化、住まい、移動や買物、年金などについて理解する。また、社会からの孤立や孤独死に関する課題を発見する。 学習活動：教科書の内容を踏まえ、厚生労働省のホームページ又はインターネットや新聞から理解した内容を踏まえグループ協議をする。高齢者施設の見学を通して、高齢者の生活について理解を深める。	○	○	○
		公民や家庭との教科等横断的な学習が可能		
		ICT端末を活用し、自分の興味・関心に合わせた調べ学習を展開する。同時に複数の事項に注意を向けることが困難な生徒には優先順位がわかるよう示したり、活動の区切りを設けたりする。		
13～18 障がい者の生活と介護	ねらい：障がいにより生じる生活上の課題や生活を支える基盤について、障害の概念と各障がいの特徴、健康、余暇活動などについて理解する。また、障がい者の社会参加や就労・雇用、スポーツや芸術について学ぶ。 学習活動：障がい者との交流活動を通して、生活課題やニーズ、介護福祉サービスを理解する。理解した内容を整理し、交流活動の感想と併せて発表する。	○		○
19～20 介護福祉サービスの概要	ねらい：継続的に地域生活をしていくために、介護保険制度や障害者総合支援制度などにおける介護福祉サービスの内容や利用方法について課題を発見し、解決方法を考察する。 学習活動：既習内容を踏まえ、グループ協議をする。		○	
		科目「社会福祉基礎」の「生活を支える社会保障制度」の知識を活用する。		

エ 学習指導案（科目「介護福祉基礎」 4時間目／20時間中）

・単元：介護を必要とする人の理解と介護 ア 介護を必要とする人と生活環境

1 本時の目標

介護を必要とする人の生活や生活支援の在り方について多面的・多角的な視点で主体的に考え、分かりやすい発表に向けて情報を整理しようとする。

[評価規準]「主体的に学習に取り組む態度」

2 本時の展開

*前時は二人一組（ペア）に分かれ、施設職員に「介護を必要とする利用者様の生活」についてインタビューを実施

過程	学習内容	指導上の留意点	備考(評価規準・評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の課題「インタビューを終えて」について確認する。 評価方法について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> インタビューで得られた内容を整理し、生徒へ示す。 スクリーン(モニター)に投影し、全員で共有 インタビューの内容を基に、介護を必要とする人の生活支援について多面的・多角的に考えることが大切であることを伝える。 	 <p>前時終了時に家庭学習用として示したワークシート「インタビューを終えて」</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> 個別学習 インタビューで聞き取った内容を踏まえ、生活支援の在り方について考える。 グループ学習 考えた内容を共有、検討、整理する。 一斉学習 グループごとに全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> インタビューがうまくいかなかった生徒がいた場合は、導入で整理した例を活用するよう促す。 できていないことよりもできていること、苦手なことよりも得意なことを認めることが大切 前時のペアとは異なる仲間でグループを構成する。 うまく発言できない生徒がいた場合は、個別学習で整理した内容に気づくように働きかける。 集団の中で当該生徒が生かされていると実感し、自信がもてるような配慮 各グループの発表後に評価のコメントをする。 全体発表を苦手としている実態がある場合は、少人数での発表(例えば「ワールドカフェ方式」)で実施 	 <p>本時のワークシート「生活支援の在り方とは」</p> <p>[評価規準] インタビューの内容を踏まえながら生活支援の在り方について多面的・多角的に捉え、分かりやすい発表に向けて取り組んでいる。</p> <p>[評価方法] ICT端末を活用し、グループワークの様子を撮影した動画と振り返りシート</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 個別学習 「振り返りシート」に記述(入力)する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習(他者の考え)を踏まえ、新たに発見した考えについて記述(入力)するよう促す。 	<p>次時の導入では、撮影した映像をモニターに再生し、学習内容を想起させることも可能</p>

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

- ① 生徒に対して「支援には、生活習慣や生活歴や大切だ。」と教師の考えを押し付けるのではなく、生徒が新たな気づきもてるように工夫する必要がある。
- ② ICT端末を効果的に活用することで、容易に全体共有することができる。
- ③ 「振り返りシート」に「自己評価」の欄を設け、生徒とともに評価を行い、評価を可視化することで、生徒が自らの学習を調整し「主体的に学習に取り組む態度」を育成することができる。

実践事例

ここでは、ICTやアプリケーションを取り入れた校内実習を実施し、高齢者や障がい者の理解につながる取組として、課題発見・解決能力を養うとともに、生徒の考えを可視化しながら学習内容を深める実践事例を次に示す。

◆ 科目「介護福祉基礎」における2単位（50分×2時間）の指導と評価の計画

1 本時の目標

- (1) 介護を必要とする人の生活上の困難や課題について思考する。

[評価規準] 思考・判断・表現

- (2) 課題発見・解決のために自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

[評価規準] 主体的に学習に取り組む態度

2 本時の展開

過程	指導内容	指導上の留意点	評価規準及び評価方法
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> 二人一組（高齢者役、介助者役）になり、高齢者疑似体験教材を装着して、本時の学習に臨むことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を提示・説明する。 必要物品の用意、装着補助をする。 安全に関わる注意事項を確認する。 	<p>歩行の困難さを体験するため、ゴーグル・膝当てのみ着用</p>
展開 (75分)	<p>ポイント ①高齢者体験を通じて気付いた困難さ ②校内で感じた課題は何か ③必要な支援について考える</p> <p>【高齢者体験】 〈ペアワーク〉 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者役と介助者役に分かれ、「入室」、「歩行」、「階段昇降」を体験する。 〈全体ワーク〉 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに入力する。 <p>【視覚障がい者体験】 〈個人ワーク〉 <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションを活用し、掲示物や風景を見る。 〈全体ワーク〉 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに入力する。 自身のスマートフォンを操作する。 </p></p>	<p>【高齢者体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアで行動し、安全に留意させる。 終了後は役割を交代する。 ※特に階段では安全に留意し、必ず随行する。 Googleスライドを活用し、本校の造りについて課題を協議する。その他の課題も併せて共有する。 <p>ICT端末の活用 </p> <p>【視覚障がい者体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> アプリケーション『色のシミュレーター』を活用し、身の回りの風景を確認させる。 <p>ICT端末の活用 </p> <p>身近な事例として「信号機」の画像を使用。</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者体験で気付いたことを共有する。 ※色覚障がい者への配慮を心がける。 スマートフォンの設定「アクセシビリティ」（視覚サポート）を紹介する。 <p>ICT端末の活用 </p>	<p>[評価規準] 高齢者役・介助者役それぞれの視点から課題や困難さを発見し、支援方法について見出し出して考えることができたか。【思考・判断・表現】</p> <p>[評価方法] ペアワークを観察 Google スライドの取組内容</p> <p>[評価規準] 自分ができる支援方法について積極的に見出そうと努力したか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>[評価方法] 協議に参加する姿勢 Google スライドの取組内容</p> <p> ディスカッション風景</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の感想をGoogleスライドを用いて提出する。 次回の学習内容について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができる支援について、Googleスライドでまとめさせて提出するように指示する。 次回の学習内容について指示する。 <p>ICT端末の活用 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 提出された振り返りシートから指導に活かす評価を行う。 <p>[評価規準] Google スライド </p>